

平成 27 年 9 月 23 日

## CRS 会議での発表およびエセックス大学訪問に関する報告書

法学部法律学科 4 年 宮川真璃

私は、9 月 14・15 日にケント大学（イギリス）にて行われた The Conflict Research Society(CRS) 2015 Conference に参加した。本学会におけるパラレルセッションにて、私は日本における国際援助への世論に関する研究について発表し、また他の参加者の発表を見ることができた。学会中は、先生方の講演を聴いたり先生方や院生と交流したりする機会もあった。学会を終えた後、17 日には神戸大学大学院法学研究科ダブルディグリー（DD）協定校であるエセックス大学（イギリス）へ表敬訪問をし、エセックス大学の先生方や神戸大学の DD 院生と交流した。

この度の CRS 会議への参加により私が得たことは、一言で表すと、今後の研究および勉学に対する意欲の向上である。具体的にはまず、私の発表に対して他大学の先生方が興味を持ち、コメントを下さったため、私の研究そのものや今まで研究に取り組んできた過程について自信を得ることができた。また、もちろん改善の余地は大いに残っているものの、発表をある程度評価して頂いたので、英語で研究発表を行うことについても自信をつけることができた。これらの自信に加えて、頂いたコメントや他の発表から刺激を受けることができたため、さらに上を目指して研究および勉学に励みたいと思うようになった。また、エセックス大学を訪問したことにより海外の大学で学ぶイメージが膨らみ、大学院にて留学を目指す気持ちが強まった。

今回の学会発表における私の反省点は、次の二点である。第一に、発表について工夫が足りなかった点である。聞き取りやすい英語や発表中の身振り手振り、スライドの見やすさなどを心掛け、聞き手にとってより分かりやすい発表となるよう改善する必要があると感じた。また反省点ではないが、次のステップとして、発表後の質疑応答をできるようになることを目指したい。第二に、コミュニケーション能力が未熟である点である。海外の大学の先生方や院生と交流できる貴重な機会であったので、もっと積極的に会話に参加するべきだったと思う。英語のスキルはもちろん、多様な話題に対応できる知識や情報を身につけ、積極的に会話できるようになりたいと感じた。

最後に、今回このような貴重な機会を下さったこと、六甲台後援会様に心より御礼申し上げます。今回の経験を活かし、今後さらに学業に励んでいく所存である。

